

### 第3版はしがき

高齢者や障害のある人など、福祉サービスを利用する人を具体的に特定して、その人をどう支援するかという援助技術論は、福祉系の学生等にとって、比較的なじみやすいように見えます。けれども、その援助の枠組みとなっている制度を理解することは、必ずしも容易ではないようです。社会保障制度の考え方や仕組みをよく理解できないまま、なかば丸暗記をする。社会福祉学部で実際に講義を試みると、そうした学生の悩みに出会うことも少なくありません。

社会保障制度は毎年のように見直され、その改正によって制度内容はますます複雑となっています。その情報を初学者にただ伝えるだけでは、情報が詳細であればあるほどむしろ、なぜそのような制度となっているのか、未消化のままに終わるでしょう。「なぜか」が理解できなければ、マニュアルに織り込まれていないような新しい問題やニーズに直面したとき、どう対応すべきか、その判断力も涵養できないように思えます。

今日求められているのは、高齢者・障害のある人を制度の単なる客体として、あたかも保護管理の対象のごとく扱うことではありません。人間の尊厳と1つの個性を持つ生活の主体として、制度を活用し、選択し、そして制度の運用・見直しに何らかの形で参加していけるように支援していくことです。このような指摘はくりかえし行われてきました。私たち1人ひとりに、社会保障について、そうした理解が求められているともいえます。将来、福祉専門職を目指そうとする人々にとっては、なぜそのような制度の仕組みとなっているかを理解して、利用者の権利行使を支援していくことがいっそ

う、求められるのではないでしょうか。

こうしたことを念頭において、本書は、できるだけ社会保障制度の根幹にある考え方や論理を、初学者が理解できるよう解き明かすことにつとめました。しかしこの目標をはたしてどこまで実現できたかは、読者の評価に委ねるほかありません。

本書は、主として保健・看護・福祉系の大学、専門学校等における社会保障論のテキストとして編集執筆されました。したがって、社会保障法の法解釈を解説することを主たる目的とするものではありません。

本書の記述にあたっては、最新の制度改正を織り込むようつとめました。ただ、執筆者間の統一を図る必要から、2014年6月末時点で確定した改正内容をもとに執筆されています。法改正にあわせて今後とも改訂を行い、最新の情報をお届けしようと思います。本書が初学者の道案内になることができれば、編者としてこれ以上の喜びはありません。

2015年1月

河野 正輝  
中島 誠  
西田 和弘